1. 研究目的

本研究の目的は、就学前児である 5 歳児が七夕の短冊にどのような願い事をするのかを検討することである。

子どもたちは、七夕という年中行事において、どのようなことを願っているのだろうか。本研究では、幼稚園において保育者が就学前児である 5 歳児に七夕の願い事を尋ねた場合、どのような願いが語られるのか、短冊を資料として検討を行った。

2. 研究方法

本研究は、2022 年 6 月に関西圏にある X 幼稚園の年長 5 歳児クラスにおいて、担任の女性保育者に依頼する形式で、七夕の短冊の願い事の調査を行った。本研究の協力依頼園である X 幼稚園の年長 5 歳児は 2 クラスあり、それぞれのクラスの女性保育者により、子どもたちへの聞き取り調査を依頼した。今回の対象となる 5 歳児は、A クラス 20 名(男児:9 名、女児:11 名)、B クラス 19 名(男児:9 名、女児:10 名)の計 39 名である。

本研究は、担任の保育者に、子どもたちが七夕の短冊にどのような願い事を記入したいのかを聞き取り調査をしていただいた。尚、聞き取り調査をする際には、クラス内の活動において、担任の保育者により、七夕に関する年中行事の説明を 2 週間程度前に行い、その後「七夕の短冊に何を書くか、考えておいてね」等の言葉かけがなされた。そして、その 1 週間程度後に、「七夕の短冊の願い事が決まった人は教えてね」等の言葉かけにより、願い事が決まった子どもたちから順次、願い事を一人ひとり聞き取る形で調査は行われた。また、その保育者が聞き取った願い事は、保育活動の一環として、保育者によりクラスに飾る短冊として記入もなされた。

本研究では、子どもたちの七夕の短冊に記入したいことの聞き取りや短冊への記入を担当保育者に依頼したため、子どもたちへの短冊記入の手続き等に関しては、2022 年 7 月に 5 歳児の A クラスと B クラスの担任保育者に聞き取り調査を行った。

3. 研究結果

本研究における 5 歳児の願い事は、幼稚園という保育環境で、子どもが保育者に答えた内容ということもあり、リレーやかけっこ等、幼稚園で行われている活動が多く挙げられていた。また、文字を書くことや勉強等、小学生になることを見据えた願いが多いことがわかった。現実的な願い事は、かけっこ、リレー、自転車、サッカー、スイミング等、運動系の願い事と文字等勉強系に大別される。子どもたちは現実的に、今「上手になりたいこと」「できるようにになりたいこと」を挙げており、大きな男女差はなかったが、勉強系の願い事を挙げる女児が 5 名おり、男児は 0 名という特徴があった。

全クラスの男女の願い事を現実(現在)、現実(将来)、非現実とカテゴリ分けを行った。本研究では、現実(現在)

の願い事が 64%、現実(将来)の願い事が 23%、非現実の願い事が 13%と、現実的に今、「上手になりたい」「できるようにになりたい」と願うものの割合が高かった。また、現実(将来)や非現実の割合の男女差はほぼなく同じ割合を示した。

4. 総合的考察

本研究の七夕の短冊の願い事の内容に関しては、かけっこ、リレー、文字、自転車といった今、「上手になりたい」「できるようにになりたい」と願う日常的なありふれた生活にかかわる現実的な願いが一番多く見られた。それは、幼稚園という保育環境で子どもが保育者に語るという方法も大きく影響していると考えられる。リレー、かけっこ、書字に関しては、当時、幼稚園で練習がなされていたこともあり、幼稚園における遊びや活動が子どもたちの願いに反映されているといえよう。また、保育者が一人ひとりの願いを聞き取るという方法ゆえに、周囲にいる友達の願いに影響されることもありえよう。

また、5 歳児という就学前児ということもあり、小学生になることを見据えて、「文字がうまく書けますように」や「勉強ができるようになりますように」という願いも見られた。このように、子どもたちは近い未来も念頭に入れた上で願いを考えていることもとらえられた。

子どもたちが現実的に、今、願っていることに関しては、女児が文字等勉強にかかわる願いを答えていたが、その他に関しては大きな男女差はなく、かけっこ、リレー、自転車等、日常的な保育や家庭場面で、「上手になりたい」「できるようにになりたい」という意思が見られるものであった。

将来に関して、職業を挙げる子どもたちも見られた。その内容に関しては、男児は、警察官、空手の先生、サッカー選手、消防士を挙げ、女児は、歌手、ケーキ屋さん、アイスクリーム屋さん、警備員と若干の男女差が見られた。回答する数が多くはないことから深く分析はできないが、クラレ(2022)の上位に挙げられているものと同様の結果を得たことから、子どもの将来なりたい職業に関しては男女差があることが本研究からも示唆された。

また、少数ではあるが、非現実的なキャラクターになりたいという願いを答える子どももいた。本研究では、現実的な願いを答える子どもが 87%と多く、岩田(2003)や藤崎・麻生(2018)と同様に 5 歳児になると、非現実的な回答より現実的な回答に変化していくことが示唆される。

本研究において、5 歳児が七夕の短冊に願った内容は、現実的に、今、上手になりたいこと、できるようにになりたいことと、将来的になりたい職業、そして、非現実的ではあるが、なりたいと願うキャラクターを挙げることがわかった。今後の課題として、他の年齢の子どもたちの願い事も検討し、その願いの変遷もとらえていくことが挙げられる。また、七夕以外の様々な場面での願いも今後、考察する必要があるだろう。